



館長だより

山形県産業科学館

令和 7 年 7 月 10 日 (木)

発行 館長 加藤 智一

昨今のアルコール飲料を取り巻く動向

館長だより第 245 号でとりあげました「ノンアルコールビールを造る 4 つの方法」。もう一度おさらいしてみましょう。日本では、アルコール分 1%未満の飲料をノンアルコール飲料と表示できます。ノンアルコールビールを製造するには 4 つの方法があります。①通常アルコール分のビールを水で薄める。②特殊な膜を用いてアルコール分だけを選択的に取り除く。③熱をかけたり、圧力を減らしたりすることで蒸留器でアルコール分を除去する。しかしこれら 3 つの方法は、アルコール分 1%未満のものではできても、昨今の日本で標準的な品質水準である「アルコール分 0.00%未満」を満たすことは難しいです。現在注目されている方法は調合です。④酵母による発酵は行わず、麦汁やモルトエキスなどを原料に、糖類、酸味料、甘味料、苦味料、香料などを加え調合します。最近のノンアルコールビールがおいしくなった理由は、この調合技術の向上にあると、その時述べていただきました。



そしたらこの度、サントリーから、様々な清涼飲料で割るノンアルコール飲料「ZEROPPA(ゼロッパ)」なるものを飲食店向けに発売するという事だったので、早速ご紹介させていただきます。この商品は、お酒の香味を再現するために、自社のウキスキーと焼酎から、それぞれアルコール分を取り除き、ブレンドしたエキスを使用しているというのが特徴です。口に含むとお酒のような香りが広がり、飲んだ後も

余韻が長続きすると言います。一般的な使い方としては、オレンジジュースやコーラ、炭酸水を 4 とすれば、ゼロッパを 1 加えることを推奨しています。平たく言えば、甲種焼酎の代わりにゼロッパを使ってノンアルコールサワーを作るような感じでしょうか。はたして、どこまで浸透するのか、楽しみです。



一方で、ワインを取り巻く状況の変化です。この度、キリンホールディングス傘下のメルシャンがフランス産ワインむの新酒「ボージョレ・ヌーボー」の販売から撤退することになりました。コン

ビニでよく見かけた？あのラベルが見られなくなるのか？！すでに国内では、アサヒビールが 24 年に撤退。サッポロビールは 25 年、2 年連続の撤退を決めており、残る大手はサントリーだけなのか？売上の落ち込み、燃料費の高騰で輸入コストが膨らんでいることが理由ですが、ネット通販は継続されるらしい。

紅花

2025. 7. 8 山形新聞より

紅花の見ごろは 6 月下旬から 7 月上旬と言われていいますので、今が正にその時ということになります。江戸時代「最上紅花」は染料の原材料として、主に上方に出荷され、本県に大きな収入をもたらしました。しかし、本当の意味で多大な利益を生み出す「紅」の製造や「染色」などの製品化が行われたのは県外の話。当時山形にこうした分業による機会の損失に気付いた人はいたのでしょうか。上方から大量の白木綿を取り寄せ、花染し、付加価値を高めて利益につなげるという発想はなかったのか？どうやらなかったわけではないが、事業化するための経済力も気迫もなかったと郷土史家の今田信一氏は言っていますが、本当の所はどうだったのでしょうか。一時産品をそのまま販売するより、何らかの加工を施して付加価値を高めてから販売するという発想は、資源にしる、農産物にしる、国を越えて現在にも通じる課題のような気がします。

